

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

「遊泉寺銅山跡活用プロジェクト」～ひとと自然との歴史を紡ぎ、未来へつなぐ先人達のスピリット～

2 地域再生計画の作成主体の名称

小松市

3 地域再生計画の区域

小松市の全域

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

小松市は、石川県の西南部、加賀平野の中央に位置し、日本海と霊峰白山に囲まれた水と緑の豊かなまちである。本市東部の里山には良質な凝灰岩が広範囲に分布しており、古く 2300 年前から石の地域資源を活用し「ものづくり」により繁栄してきた歴史がある。

弥生時代、現在の本市那谷町・菩提町・滝ヶ原町で産出される碧玉を原料に八日市地方（ようかいちじかた）で生産された石のアクセサリーは、日本海沿岸交易を経て九州へと届けられ、多くの王たちを魅了した。古墳時代には凝灰岩を切り出し加工する技術が導入され、飛鳥時代の河田山古墳群アーチ形天井（天井部がアーチ構造の横穴式石室は国内唯一のもの）、中世における生活具や灯籠・石仏、江戸時代の小松城大改修における石垣（当時の新技法とされていた「切込み接（は）ぎ」を採用したもの）など、各時代において国内最先端の技術を有しており、広く石工技術が定着した。

さらに、江戸時代後期からは、本市金平町・尾小屋町・遊泉寺町において金や銅の採掘が始まり、大正時代に全国有数の銅の産出量となるまで成長した鉱業は、小松をはじめ明治維新後の加賀エリアの経済をも支えた。

石の資源を見出し、時代のニーズに応じて高度な加工技術を磨き上げ、2300 年にわたって築かれた本市の「石の文化」は、平成 28 年度に『『珠玉と歩む物語』小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～』として日本遺産（文化庁が地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を国内外に発信するためのストーリー）に認定されている。

本プロジェクトの舞台である遊泉寺銅山（本市鶉川町）は、最盛期の大正時代初期には、従業員とその家族約 5,000 人が住む鉱山町を築くほど大きな産業となっていた。当時の銅山経営は時代の最先端をいくもので、銅山から

市中心部までの運搬用の軽便鉄道（後の北陸鉄道小松線）の敷設や、鉱山専用電力のための神子清水発電所（石川県に現存する最古の発電所）の建設は、銅山の周辺地域を一気に近代化させた。また、銅山閉山後も地域社会の荒廃を避けたいという銅山経営者の思いから始まった鉱山用機械製造の鉄工所は、地方産業の発展に大きく寄与し、高い技術を有する多様な産業が集積する今日の本市の産業につながっている。なお、当該鉄工所の社是には、「ひとづくり」が大きく掲げられており、それは本市の「こまつ創生総合戦略」に通じるものである。

4-2 地域の課題

栄えた鉱山町にあった社宅・小学校・病院や映画館等、往時の施設のほとんどは取り壊され、植林によって自然に還っているが、現在の遊泉寺銅山跡には、精煉所跡である高さ 20 メートル・直径 2.5 メートルの巨大煙突や、竪坑（たてこう）跡、廃鉱を捨てた砂山など、当時の鉱業の規模やその様子を窺い知ることのできる遺構がいくつも残されている。これらの遺構や鉱業の歴史、そして先人達の精神は、今日の本市の産業の礎であり、深く感謝するとともに未来へ受け継がれるべきものである。

地元町内会からの要望もあり、小松商工会議所機械金属部会（現在は工業部会）等が中心となり、遊泉寺銅山跡記念碑の建立や花壇の造成等を行ってきたが、地元の過疎化や住民の高齢化もあり、維持・管理が困難な状況となっている。

そのような中、地元 3 町（本市鶉川町・遊泉寺町・立明寺町）が中心となり、遊泉寺銅山跡等町内の観光資源の利活用の方策検討及び実施を行うことを目的に平成 27 年度に「鶉遊立地域活性化委員会」を発足した。また、前述したとおり平成 28 年度に遊泉寺銅山跡を含む本市の「石の文化」が日本遺産の認定を受けたことを契機に、遊泉寺銅山跡の再整備の気運がさらに高まっている。

4-3 目標

本プロジェクトは、2300 年にわたって築かれた本市の「ものづくり」の歴史と精神を後世につなぐため、それらが色濃く残る遊泉寺銅山跡を、「ものづくり」、「石の文化」、「人材育成」の産業観光の遺構として再整備する民間団体に対し、補助金交付により支援し、本市の産業の発展に大きく寄与した「ひとづくり」の精神を次世代へ継ぐ教材として活用するとともに、市内に点在する「石の文化」をつなぎ市全体の交流人口の拡大を図り、観光客の案内や歴史・遺構の説明等、地元住民ボランティアの増加につなげ地元 3 町の

活性化を目指すものである。

【数値目標】

事業	遊泉寺銅山跡活用プロジェクト		
K P I	地元住民による 観光ボランティア人数	遊泉寺銅山跡 記念公園来園者数	年月
申請時	5 人	1,675 人	H29. 3
平成 29 年度	10 人	2,000 人	H30. 3
平成 30 年度	15 人	3,000 人	H31. 3
平成 31 年度	20 人	5,000 人	H32. 3

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 (3) に記載

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：「遊泉寺銅山跡活用プロジェクト」

～ひとと自然との歴史を紡ぎ、
未来へつなぐ先人達のスピリット～

(2) 事業区分：観光業の振興

(3) 事業の目的・内容

(目的)

古より培われた本市の「ものづくり」の歴史と精神に感謝し、日本遺産に認定された「石の文化」を形成する一つの貴重な遺産として残り後世に引き継ぐべく、遊泉寺銅山跡に残る往時の遺構の周辺整備、遊歩道や資料館・休憩施設の整備等を行う民間団体（小松商工会議所工業部会が中心となり、地元町内会等と共に、遊泉寺銅山跡の再整備を目的とする実行委員会）に対し、整備に要する経費の全額を本市が支援し、本市の産業遺産である旧鉦山町を「歩いて・見て・感じられる」観光スポットとして再整備するプロジェクトを後押しする。

また、本市の産業の発展に大きく寄与した「ひとづくり」の精神を次世代へ継ぐ教材として活用するとともに、市内に点在する「石の文

化」をつなぎ市全体の交流人口の拡大を図り、観光客の案内や歴史・遺構の説明等、地元住民ボランティアの増加につなげ地元3町の活性化を目指すものである。

(事業の内容)

1. 遺構の周辺等の整備

現存している施設である真吹炉（まぶきろ）（銅の含有量など鉱石の成分分析のために使われたレンガ造りの炉）、精煉所跡である巨大煙突、竪坑跡（深さ40メートルにも及ぶ鉱石の発掘場）及び既設の記念碑や梅林園周辺・遊歩道等を、豊かな水・緑の自然と融合させ、3つのテーマを持って整備する。

- ① 小松市産の石材を活用し「石の文化」を象徴
- ② 樹木の適度な間伐により遺構に再び「光」を当てる
- ③ 歴史や精神の継承に感謝し、また回遊を楽しむための「伝承の鐘」の設置

- ・真吹炉周辺は、近くを流れる小川の“せせらぎの流れ”を感じられる親水空間をコンセプトに、遺構の解説板、石張園路、林間遊歩道、鐘、スツール等を整備する。
- ・巨大煙突の周辺は、“そびえる煙の塔”を眺め、先人の偉業に思いを馳せる場所をコンセプトに、遺構の解説板、石張園路、鐘、スツール等の整備及び周辺樹木の間伐を行う。
- ・竪坑周辺は、地下深くに眠る恵みに感謝する場をコンセプトに、遺構の解説板、石張園路、鐘、スツール等の整備及び周辺樹木の間伐を行う。
- ・記念碑周辺は、人々を迎え入れる“彩りの桜山”をコンセプトに、桜の植樹、鐘の設置等を行う。
- ・地元の方々によって育てられた梅林園に、石張園路、鐘、スツール等を設置し、回遊ルートの一つとして整備する。
- ・遊歩道中のY字路の分岐点周辺に、案内サイン、石張園路、鐘、スツール等を整備する。

初年度) 各所整備のための測量及び設計業務

各所における公園機能（石張園路、林間遊歩道、間伐・植樹等）の整備

2年目) 各所における案内板の設置と休憩施設機能（鐘・スツール）の整備

3年目) 2年目に引き続き各所の整備

2. 道路及び遊歩道の整備

鉾山の跡地には1周約2キロメートルの遊歩道・登山道が整備されているが、舗装はされておらず、水路も確保できていない。「歩いて・見て・感じられる」観光スポットとしては、整備が不十分であるため、遊歩道の一部の舗装及び水路の敷設を行うとともに、登山道の改修を行う。

初年度) 遊歩道・登山道の舗装・改修

3. 資料館・休憩施設の整備

訪れた方々に「ものづくり」の歴史や「ひとづくり」の精神を伝えるため、遊泉寺銅山の歴史等の資料を保管・展示するとともに、小休憩や児童の学習等に活用するスペースを設けた資料館・休憩施設を整備する。

初年度) -

2年目) 測量及び設計業務

3年目) 資料館・休憩施設の整備

(4) 地方版総合戦略における位置付け

「こまつ創生総合戦略」において、4つの基本目標を掲げている。本プロジェクトについては、基本目標「アクセスを活かし、新しい産業や文化、くらしを創生」のうち「さらなる産業振興と拠点性の向上を加速」、「地域資源の評価とブランド力を向上」を達成するための事業の一つである。

本プロジェクトは、本市の産業遺産である遊泉寺銅山跡を「歩いて・見て・感じられる」観光スポットとして再整備することを支援するもので、「ひとづくり」の精神を次世代へ継ぐ教材として活用するとともに、地元の活性化及び市全体の交流人口を拡大させることにより、重要業績評価指標（KPI）として掲げている交流人口500万人（2019年）の達成に寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標

事業	遊泉寺銅山跡活用プロジェクト		
K P I	地元住民による 観光ボランティア人数	遊泉寺銅山跡 記念公園来園者数	年月
申請時	5 人	1,675 人	H29.3
平成 29 年度	10 人	2,000 人	H30.3
平成 30 年度	15 人	3,000 人	H31.3
平成 31 年度	20 人	5,000 人	H32.3

(6) 事業費

(単位：千円)

遊泉寺銅山跡 活用プロジェクト	年度	H29	H30	H31	計
	事業費計	60,000	78,000	83,000	221,000
区分	負担金、補助金 及び交付金	60,000	78,000	83,000	221,000

(7) 申請時点での寄附の見込み

(単位：千円)

年度	H29	H30	H31	計
法人名	(株)小松製作所	(株)小松製作所	(株)小松製作所	
見込み額	25,000	33,000	35,000	93,000

(8) 事業の評価の方法 (PDCA サイクル)

(評価の手法)

本事業の K P I である地元住民による観光ボランティア人数と遊泉寺銅山跡記念公園来園者数について、実績値を公表する。また、本市の“こまつ創生会議”(本市に関わりのある産学官金労等の各界関係者・識者をメンバーとし、こまつ創生総合戦略に基づく政策の事後検証や、総合戦略の期中見直し等に係る意見・提案をいただくもの)により、事業結果を検証し、PDCA サイクルによる改善点を踏まえて次年度以

降の事業手法を修正することとする。

(評価の時期)

翌年度8月までを目途に、“こまつ創生会議”による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

(公表の方法)

目標の達成状況については、検証後速やかに本市ホームページ上で公表する。

(9) 事業期間 平成29年7月～平成32年3月

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

事業名：連絡道路拡幅事業

事業概要：遊泉寺銅山跡の西に位置する県道55号線と遊泉寺銅山跡とをつなぐ連絡道路の一区間（約650メートル）を拡幅し、観光や学習に訪れる車両の通行の円滑化を図る。

事業主体：小松市

事業期間：平成29年7月～平成32年3月

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成32年3月31日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況にかかる評価の手法

本事業のKPIである地元住民による観光ボランティア人数と遊泉寺銅山跡記念公園来園者数について、実績値を公表する。また、本市の“こまつ創生会議”により、事業結果を検証し、PDCAサイクルによる改善点を踏まえて次年度以降の事業手法を見直すこととする。

7-2 目標の達成状況にかかる評価の時期及び評価を行う内容

翌年度 8 月までを目途に、“こまつ創生会議”による効果検証を行い、翌年度以降の取組方針を決定する。

7-3 目標の達成状況にかかる評価の公表の手法

目標の達成状況については、検証後速やかに本市ホームページ上で公表する。